

日本医史学雑誌第四十三巻総目次

原 著

藤浪鑑の医史学的検証 附 藤浪肉腫ウィルス・遺伝子の研究……………杉立 義一……………三〇三

古記録にみえる室町時代の患者と医療(一)―『看聞御記』

嘉吉元年入江殿闘病記録から……………水谷惟紗久……………三〇七

ジロラモ・フラカストロの伝染理論……………伊藤 和行……………三〇九

幕末の弘前藩における痘瘡流行と牛痘種痘普及の実態

―豪商金木屋又三郎日記による研究―……………松木 明知……………三二〇

中原徳太郎・小此木信六郎・塩田広重・近藤達児の

医学校の再建―日本医学専門学校から日本医科大学

昇格迄の困難な道程―……………唐沢 信安……………三二五

キナ樹皮渡来の伝説をめぐって、チンチョン伯爵夫人説と

イエズス会説……………泉 彪之助……………三三〇

古記録にみえる室町時代の患者と医療(二)―『言継卿記』

永禄九年南向闘病記録から……………水谷惟紗久……………三三七

講御堂寺過去帳による藍屋家の系譜的研究……………松木 明知……………三三九

解剖学書としてのヴェサリウスの『ファブリカ』と

『エヒトメー』……………坂井 建雄……………三四三

吉益東洞の天命説について―中国古代医学思想との

連関から―……………舘野 正美……………三四七

ロブリー・ダングリソンの『医学辞典』―明治初年の

わが国英米医学への貢献―……………深瀬 泰且……………三五三

研究ノート

『勅撰真本大同類聚方』について……………後藤 志朗……………三五九

西洋、中国、日本のジフテリア史素描 その三 近代……………中村 昭……………三六〇

医学教育制度の変革・漢方から洋学へ 浅井国幹と

長与専斎の相剋を中心にして……………長与 健夫……………三六八

広 場

インターネットにおける医史学……………ヴォルフガング・ミヒェル……………三四八

「健康」という語の創始者について……………杉浦 守邦……………三四九

資 料

衛生学者坪井次郎業績……………泉 彪之助……………三二二

人痘法についてのメーランドの報告……………小田 泰子……………三六九

第十二回日本医学会第一分科(医史学)講演記録……………五九

小島宝素著・森立之写『河清寓記』―書名・人名事項索引……………町 泉寿郎……………三五五

追 悼

丸山博先生を偲ぶ……………中川 米造……………二二五

追悼 川喜田愛郎先生……………酒井 シヅ……………二七三

徳島県人になりきった福島義一先生

長門谷洋治：五〇六～五〇七

記事

消息

シーボルト生誕二〇〇年記念国際医学シンポジウム

長瀧 重信：二六

第36回医学史研究会・日本医学史学会関西支部

長門谷洋治：二八

（一九九六年秋季）合同総会

深瀬 泰且：二七

宗田一先生合同追悼会

日本医学史学会への加盟申請についての公示

日本医学史学会：二七

中天津顕彰行事

長門谷洋治：五〇

例会抄録

アメリカと日本におけるヘボン

大滝 紀雄：二九

江馬式蒸気風呂と薬草

中西 淳朗：二二

懸田克躬先生のこと

岡田 靖雄：二四

山脇東洋の『外台秘要方』版行について

町 泉寿郎：二五

ドイツ・ロマン主義医学とその遺産

小原 正明：二六

中国で失われ日本に現存する中国医書―内閣文庫所蔵本の分析―

真柳 誠・王 鉄策：二五

血液循環論前史（2）

藤倉 一郎：二五

アラブ医学者の名前

泉 彪之助：二五

八丈島に流された医師たち―八丈島流人銘々伝より―

中西 淳朗：二五

本間玄調について

荒井保男：二五

『鎮将府日誌』について（その二・太政官日誌との併読）

中西 淳朗：二五

荒川保雄：風に賭けた四十年の生涯……………佐分利保雄：五〇

ペスト残影シリーズ その八 ライン川中流域に「ペスト残影

を求めて」……………滝上 正：五〇

ケガレの思想の歴史的展開……………杉田 暉道：五二

紹介

アーノ・カーレン著、長野敬・赤松真紀訳『病原微生物の氾濫』

深瀬 泰且：二六

C・P・ツェンベリー著・高橋文訳『江戸参府随日記』

ヴォルフガング・ミヒェル：二六

シーボルト生誕二百周年記念号『鳴滝紀要第六号』

石田 純郎：二三

唐沢信安著『済生学舎と長谷川泰一 野口英世や吉岡弥生の学んだ

私立医学校』……………中西 淳朗：二三

山県郡医師会編『広島県山県郡医師会史上・下』

江川 義雄：二三

フレデリック・F・カートライト著『歴史を変えた病』

今泉 孝：二七

土屋雅春著『医者のみた福澤諭吉』……………川島 真人：二八

精神科医療史研究会編集『長山泰政先生著作集』

蔵方 宏昌：二〇

山田慶兒・栗山茂久編『歴史の中の病と医学』

杉立 義一：二五

杉山章子著『占領期の医療改革』……………酒井 シツ：二四

大谷藤郎著『らい予防法廃止の歴史』愛は切ち克ち

城壁崩れ落ちぬ』……………橋本 相朋：二六

二宮陸雄著『種痘医北条諒斎 天然痘に挑む』

医史学文献目録 平成七(一九九五)年

深瀬 泰且 五七

日本医史学雑誌第四十三巻総目次
順天堂大学医史学研究室編 二四
五七

第九十八回 日本医史学会総会演題目次

特別講演 I

日中医薬文化交流史―博多を窓口として…小曾戸 洋…六

特別講演 II

九州大学医学部誕生と関連医史学資料について

曾田 豊二…三三

特別講演 III

福岡地方の二千年の医学の歴史…奥村 武…三三

一般口演

1 中国伝統医学と道教(第十八回「水滸伝」から

…吉元 昭治…三三

2 『法華経』にみる医療…杉田 暉道…三三

3 宋板傷寒論の三陰三陽篇の成立について―異本との

条文比較による検討―牧角 和宏…三三

4 『内経』「真」字考…宮川 浩也…三三

5 北宋官刻医書の民間への流通

6 日本の精神病学における遺伝学的研究の歴史

陳 捷・小曾戸 洋…五

7 川原汎とその著『内科彙講―神経係統篇』

(その一)…岡田 靖雄…五

8 「田原結節」の発見者 田原淳 補遺…富田 達夫…六

9 日本における近代外科と麻酔(一)―虫垂の解剖学的

認識と虫垂炎の病理、早期虫切への過程

…藤田 俊夫…三

10 医史学教育の現状アンケートから…大村 敏郎…六

11 明治の軍医部出仕官について…黒澤 嘉幸…六

12 明治三十七・八年戦役「熊本予備病院外科治験記事」

に就いて…田代 逸郎…六

13 日本外科学会の濫觴…佐藤 裕…七

14 順天堂院長 佐藤進のベルリンからの手紙

…酒井 シヅ…七

15 中川修亭の「麻薬考」の書誌学的研究

…松本 明知…七

16 戦時下における医事雑誌の統合廃止…寺畑 喜朔…七

17 「看護」という言葉の使用のはじめ(第二報)

―平野重誠「病家須知」と看護…平尾 真智子…七

18 眼科医療器械発達史―屈折及び眼底検査器械から―

…奥沢 康正・野中杏一郎…八

19 済生学舎の女子医学教育及びその周辺

- 20 明治女医史の基礎的研究(二)「女医論」について……………唐沢 信安…六三
- 21 初期の九大皮膚科と旭憲吉教授……………三崎 裕子…六四
- 22 開拓使および札幌県における医術開業免状について……………長門谷洋治・坂上 俊之…六六
島田保久・長瀬清・横田一郎・菊田道彦・
福井卓治・吉田 信……………六八
- 23 明治初期における広島県立病院の役割と病院長たち……………江川 義雄…六〇
- 24 日本及び中国の脳解剖の先駆者―河口信任と王清任……………邵 沛…六三
- 25 上皮の概念の成立に果たしたヘレンとケリカーの役割……………藤田 尚男…六四
- 26 江戸時代の馬の内臓解剖図と解剖記述について……………松尾 信一…六六
- 27 新資料「美人解剖図」と「刑死者解体図」……………和田和代史…六九
- 28 『崎館箋臆』について―清医の胡兆新と幕府医官との筆談について……………郭 秀梅…七〇
- 29 宮内庁書陵部所蔵、中国第一の針灸証治図説……………王 鉄策…七三
- 30 「樗雜集」における口腔部門の研究…戸出 一郎…七四
- 31 『寿域神方』の瀉血療法……………
- 32 友部 和弘・王 鉄策・小曾戸 洋…七〇
- 33 居延漢簡に見る疾病と傷寒の概念…猪飼 祥夫…七〇
- 34 敦煌文書O.六一三(靈)とP.三二八七(〆)の合致……………荒尾 敏雄…七〇
- 35 浅井貞庵と尾張の本草学……………遠藤 正治…七三
- 36 貝原益軒著『大和本草』記載のミイラの薬効について……………江頭 啓介・原 敬二郎…七四
- 37 『養生訓』(貝原益軒著)に示された医師になるために読むべき書について(併せて現代の漢方医学教育について)……………原 敬二郎…七六
- 38 江戸期本草家の北陸への関心(一) 山本溪山の能登半島・立山採薬紀行……………正橋 剛二…七八
- 39 新発見の『啓迪集』古鈔本……………真柳 誠・矢数 道明…七〇
- 40 田代三喜の新発見の医書『酬医頓得』の意義……………遠藤 次郎・中村 輝子・奈倉 道治…七三
- 41 小島宝素・海保漁村の天保十三年の京都訪書行について……………町 泉寿郎…七四
- 42 亀井南冥著『病因備考』について(特に後藤良山著『病因考』との関連)……………木下 勤…七六
- 43 『解体新書』の原著者J・A・クルムスについて……………石田 純郎…七六
- 44 新史料……………
- 45 ベレッティーニ解剖図譜における自律神経系……………レジス・オルリー・本宮かをる…七〇

- 44 福岡・原三信氏家蔵『阿蘭陀外科術式図譜絵巻』
 についての考察……………蒲原 宏…三三
- 45 「レメリン解剖図」と「原三信解剖図」について
 ……………原 三信・原 寛…三三
- 46 赤城信一について(第二報)……………上田 智夫・
 小竹 英夫・宮下 舜一・吉田 信…三六
- 47 江戸幕府御典医関東船橋氏の略史……………奥富 敬之…三六
 『盲聾記』の記事から―戦国時代の医師の日記
- 48 ……………水谷惟紗久…四〇
- 49 幕末期の院内銀山「お抱え医」の実態―「門屋養安日記」
 にみる庶民の医療(一)……………助 昭三…四三
- 50 乗附氏家系と乗附流産科……………石原 力…四四
- 51 モーゼス・マイモニデスの生涯……………泉 彪之助…四四
- 52 リヨンにおける医学小史(一)クロード・ベルナル
 博物館……………小林 晶…四六
- 53 ワードロップ「瀉血について」一八三五……………藤倉 一郎…五〇
- 54 アラブ医学で用いられている蒸露剤の他地域への
 伝播……………中村 輝子・遠藤 次郎・海保 房夫…五三
- 55 フランス軍陣医学におけるヴァル・ドゥ・格拉斯
 病院の役割……………今泉 孝…五五
- 56 ウイリアム・ウイリスと写真師 島霞谷……………中西 淳朗…五五
- 57 適塾の塾頭松下元芳(筑後久留米藩医)の紹介
- 58 ……………中山 茂春…二五
- 緒方洪庵訳『扶氏経験遺訓』での疑問……………津下 健哉…二六
- 59 一九〇〇年以降の日本におけるプロテスタント・
 ミッションの医療伝道……………高安 伸子…二六
- 60 緒方春朔『種痘必順辨』の書名について……………富田英壽・手島 仁・熊本熙史・久賀興亜・
 田中泰博・久賀征哉・武井一剛……………六四
- 61 お玉が池種痘所の設立に参加した上山藩医奥山玄仲
 ……………深瀬 泰旦…六六
- 62 近代検徴制度の導入と英国「伝染病予防法」―外務省
 資料・英国国立公文書館資料を中心に……………大川 由美…六六
- 63 生体実験による結核予防法の確立……………美馬 聰昭・国中るみ子…七〇
- 64 明治十八年(一八八五)における本邦の初期の細菌学
 培養について……………会田 恵…七三